

松本参与との意見交換会（南信地区）

日 時：平成 29 年 3 月 14 日（火）午後 1 時 30 分から午後 3 時 10 分

場 所：飯田創造館

参加者：20 名

概 要

[主な意見]

【新美術館の理念、コンセプト関連】

- 飯田は長野からの時間と距離の問題がある。飯田から信濃美術館に行くのも東京の美術館に行くのも時間はほとんど変わらない。むしろ東京に行ったほうが選択肢も魅力的なものも多い。ぜひ飯田から長野に行きたいと思える企画や提案を期待したい。
- 新美術館の考え方に南信が不在になることを危惧している。南信の人たちもよい美術作品を観たい。いろいろな美術作品を南信に巡回させてほしい。
- 南信はいろいろな面で耐えている。ぜひ信濃美術館のよさを南信にも浸透させる方策を考えてほしい。最近の子どもたちは美術や図工でつくった作品のレベルが劣っている。次世代の子どもたちの学びを重視してほしい。
- 県内の美術館で子どもたちの作品展を 30 年来続けているが、最近、出品作品数が少なくなっている。学校教育の中で子どもたちの鑑賞と作品制作をつなげる県単位のプログラムを学校の先生と連携して開発してほしい。
- アウトリーチ活動は大変なこと。これまでも信濃美術館は学校への鑑賞カードの貸出や学芸員の出張講座など行っている。信濃美術館のコンセプトを共有する中で、南信の美術館学芸員が間接的に取り組めることを考えられないか。
- 信濃美術館の効果が南信に還元されることを期待したい。例えば、講師を派遣して子どもから大人まで美術を勉強する機会を作るなど、信濃美術館の中だけでなく外にも活動を広げてほしい。
- 県民が美術館を日常的に感じるためにはどうしたらよいか。考えられるのは教育の分野。長野県には芸術大学がないので、信濃美術館で芸術大学並みの技術講習が受けられるとありがたい。そのことが長野県出身の芸術家を育てることにつながるのではないか。
- 飯田から信濃美術館まで高速バスで往復 6 時間かかる。信濃美術館の所蔵する美術作品を自宅に居ながら堪能できるようにインターネットで美術作品のディテ

イルまで分かるようにできるとよい。

- 県として信濃美術館でどのような人材を育てようとしているのか。美術関係の活動をしている人たちが信濃美術館に集えることはうれしく、ぜひ実現してほしい。現在、美術団体の作品展示は貸館に追いやられているが、もっと中心に捉えてはどうか。信濃美術館として芸術家を育てるスタンスが見えるとうれしい。
- 美術館はこれまで視覚障がい者にとって縁遠い場所であったが、最近は視覚障がい者が美術館にどのように関わられるか研究が進んでいる。信濃美術館でも企画展として「触れる彫刻展」を開催しているが、ぜひユニバーサル展示を常設展示として考えてほしい。触って鑑賞したい気持ちは、障がい者だけでなく健常者にもあると思う。

【施設整備関連】

- 県美術展の作品が展示可能な壁面を確保してほしい。信濃美術館に期待している。
- 飯田から信濃美術館に行くことを考慮して、駐車場のスペースを確保してほしい。
- 設計者は、有名でなくてよいので、機能性を重視した美術館にしてほしい。
- 城山公園や善光寺など周辺環境とのつながりや一体感のある開かれた空間に魅力を感じる。美術館は単なる箱ではない、長野市の城山につくった美術館であってほしい。かけがえのない美術環境のすばらしい空間にしてほしい。

【運営関連等】

- 美術館から門前のまちなかに出ていく活動を充実させてほしい。若手作家と子どもたちとの交流などできるとよい。
- 飯田から信濃美術館まで高速バスで往復5千円位かかる。南信地区の人向けに優待券やパスポートなどを出すような恩恵があるとよい。

(以上)